会　　報　≪第382号≫

次代を築くヒューマンネットワーク

一般社団法人兵庫県建築会

発行日：平成29年　8月　1日

目次

◎　第４５７回（平成２９年６月）月例会報告
　　第２部　『オールドニュータウン問題への対応モデル事業　明舞団地の取組』（後編）
　　講師　兵庫県住宅供給公社住宅企画部明舞団地再生課　神吉　竜一氏・１～４頁
◎　寄　　稿　　神戸秘話『神戸の音楽の父　田中銀之助』　会長　瀬戸本　淳・・　５頁
◎　会員リポート　鉄道秘話『ひょうごのナニコレ珍百景　西宮に残るマンボウトンネル』③
　　（株）岡工務店　専務取締役　岡　澄彦氏　・・・　６頁
◎　花だより　『花だより＆小観光　北播磨・ラベンダーパークほか』　・・・　７頁
◎　健康づくり　『１００歳人生を考える』　・・８～９頁
◎　お知らせ　・・・　９頁
◎　広報コーナー　寄稿『神戸音楽の父、田中銀之助』　朝来市立大蔵小学校校歌　・・・１０頁
　　『兵庫県住宅再建共済制度』　・・・１１頁

第４５７回月例会報告
『オールドニュータウン問題への対応モデル事業　明舞団地の取組』　（後編）

講師：兵庫県住宅供給公社住宅企画部明舞団地再生課　主査　神吉　竜一

（開催日：平成２９年６月１５日（木）　会場：西村屋和味旬彩）

７月第３８１号では、月例会講演から明舞団地の開発経緯と高齢化等現在の抱える課題について報告しました。今回はその対応状況について報告したいと思います。

報告に先立ち、講演で配布された「明舞団地～まちづくり５０周年記念誌」を見ていましたら、そのオープニングイベント・記念シンポジュームでコーディネーターを務められた小森星児氏（神戸商科大学名誉教授・神戸復興塾塾長）による団地開発の時代的背景と発展の様子、そして今日的課題に至る経緯と取組みに期待する文章が載せられていました。５０年の経過と課題解決の取組状況が大変要領よく紹介されていましたので、その要点を紹介したいと思います。

６月月例会

∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

『終わりのないストーリー：小森星児氏』

○　団地は奥が深い。

団地の開発は、日本経済の高度経済成長の生きた証しである。整然と並ぶ中層均質の住宅群は、大都市郊外の懐かしい風景の一部になっている。

生活利便性の面でも団地の計画は卓抜であった。中央地区にはショッピング、医療、レクリエーション施設など配置された。内部でもダイニングキッチン、水洗トイレ、内風呂などの装備や三種の神器をはじめ生活利便道具が所狭しと収まっていた。

○その住民は団地族と呼ばれた。

団地族の言葉が生まれ、彼等は合理的洋風生活様式に馴染み、高額な電化製品、耐久消費財の購買者として高度成長の共助者であった。

同じ年頃の世帯が一斉に入居したため、団地は賑やかで、世帯数より小学生の方が多いのが当たり前で、運動会は若い家族で溢れんばかりの盛況であった。

○団地のライフサイクル

団地の隆盛期は長続きしない。日本の開発では、土地の早期処分により、新規供給は止まり居住者の年齢は年々上昇することになる。

分譲住宅は入居者の入替があまりなく、高齢化が目立ってきた。さらにオイルショック前後には出生率の低下が目立ってきた。

このような事情から、明舞団地では入居開始後１０年で人口がピークに達し、以降緩やかに減少している。人間のライフサイクルより短期間でオールドニュータウンへの道をたどり始めた。

○若返りへのサクセス・ストーリー

明舞団地の若返り計画は兵庫県の強いイニシャティブで始まった。古い団地の資産はゆとりある空間と豊富な緑である。この資産の活用に民間資本の導入を検討されたが、有利な投資物件とは考えられなかった節がある。

一方、住民組織との連携は年とともに強化され、住民主体のまちづくりの期待がたかまった。これには住民意識の向上、県・公社のバックアップ、ＮＰＯ、大学の協力など関係者全員の努力によるところが大きい。

しかし、現時点（注：平成２７年）では未完であり、まちづくりそのものが終わりのないストーリーであろう。

50 周年記念シンポジューム
『目指そう！元気な街であり続けること』
：明舞センター　26．05.24

以上を踏まえまして、明舞団地再生に係る講演の後編を報告します。

１　明舞団地再生計画（平成１６年３月）

（１）計画の意義

・「オールドニュータウン問題」への対応モデル
・一般市街地が将来直面する問題への先行対応モデル

（２）計画の概要

①住民主体のまちづくりの推進
・住民活動を効果的に支援し、コミュニティを再生。
・地域住民を中心に行政が連携し、団地全体を総合的に運営する仕組みを構築。

②まちの軸とまちの核の再生
・「まちの軸」：中央幹線を中心に景観形成
・「まちの核」：センター機能のリニューアル実施

③民間活用
・民間資金や民間活力を効果的に活用（リーディングプロジェクト）

（３）計画の進め方

・明舞団地再生計画に基づき、各々が自主的に事業を実施
・県は、地域住民が自主的に再生・まちづくりができる枠組を構築

（４）具体的な取組

・明舞センター地区再生事業（リーディングプロジェクト）等の実施

２　これまでの取組

①「ＮＰＯ活動の誘致」

事業開始：平成１５年～
目的　　：団地活性化、居住者利便性向上

２年間のモデル事業として、当初３団体を選定した。現在、そのひとつの「明舞ひまわり」が活動を広げ、高齢者向けの配食等食を通じた繋がりをつくっている。

食をテーマとしたイベント、学習会等を実施し、地域になくてはならない団体となっている。

②「まちづくり広場」

事業開始：平成１６年～
目　　的：再生計画の周知、住民相互の交流・情報交換の場

だれもが集える場所に「まちづくり広場」を設け、そこに住民主体で「まちづくりサポーター会議」などが出来た。まちづくりにかかわるイベントを開催している。

③「明舞お助け隊」
事業開始：平成１９年から
目的：ボランティアグループで住民同士の相互扶助を目的
　歳を取ると電球交換、家具の移動、草刈等が困難になり、そこを登録のボランティアが手伝いに行く。有償ボランティアである。

④「まちなかラボ」
事業開始：平成２１年開設
目的：団地内に学生の居る環境をつくる
　　住民と学生の交流により団地を活性化する
　　実践的な調査研究の場とする
　大学のサテライトのラボとして、兵庫県立大学、神戸学院大が主に関わっている。

空き店舗活用：明舞まちづくりラボ

⑤「まちづくり委員会」
事業開始：平成２１年7月設立
目的：明舞団地の再生に関わる団体・個人による
　　エリアマネジメントの一体的な実現
　住民や行政が団体毎に会議を設けていたものを、一つのラウンドテーブルとした。
　住民代表、行政（神戸市・明石市）、ＵＲ、県公社、商業者、学識者が一堂に会して、様々の課題を共有し、話し合う場として作った。
　当初は要望会となったが、時期を追うごとに、住民の活動等を報告する場に大きく変わってきた

まちづくり委員会：円卓会議

⑥「学生シェアハウス」
事業開始：平成２３年度開始
目　　的：団地内若年化、ミクストコミュニティの推進、地域コミュニティの活性化
　ニュースにもなったが、内閣府の承認を得て目的外使用により県営住宅に学生に入居してもらう取り組みで、年代のギャップによる逆の相乗効果が出ている。学生の中には、県住の副会長をした人もいる。現在７名の入居で、卒業した方も10名程度いる。

⑦「住民講座」
事業開始：平成２５年度開始
目的：地域活動の動機付け
　　地域住民の交流、連携の拡大推進
　まちを楽しむ研究所を明舞センター地区内につくり、芸術文化等の知識を持つ住民を地域の資源として掘り起こし、地域に還元できる機会を提供している。
　これは、個人として技術を身につけるだけが目的でなく、そこで繋がりを持ったり、あるいは学んだことを地域に持ち帰り、地域の方と繋がって貰うことを目的としている。

⑧「まちびらき５０周年事業」
　平成２６年にまちびらきから５０年を迎え、５０周年記念事業を実施した。全部で６３件の事業を実施したが、公共団体主体事業は５件だけで、他は地域住民、ＮＰＯ法人の主体事業である。

３　５０周年を終えて

　私が明舞担当に１０年担当した中で、住民意識の変化を如実に感じてきた。
　いろいろなまちづくり活動について、新聞紙面に出てもらうよう働きかけてきた。報道により注目されていくと、他の活動家達の意識が変わっていき、「こないしてくれ」ではなく、「こういうふうにしたいが、どうしたらいい？」といった表現に変化してきた。
　まちづくり委員会でも、現在では、様々の報告があり、もともとの一緒に協議するということがなかなかできなくなり、嬉しい悲鳴となっている。
　この辺りはてこ入れが必要かと感じている。

①「明舞まちづくり交流拠点」
　神戸側の施設が段階的整備のため平成２８年３月末で用途廃止したが、コミュニティの場を途絶

まちづくり交流拠点：オープニングセレモニー

えさせることのないよう、国の地方創生の補助を受け、明石側のセンター地区に「明舞まちづくり交流拠点」を作った。現在、ほぼ３６５日に亘りまちづくり広場やラボの機能に活用されている。

②「リノベーション事業」

平成２７年度に明舞団地リノベーション企画としてモデルルームを一斉公開した。

- 分譲集合住宅入居者向けに、住み続けるための改修ポイントや費用をモデルで示す。
- 団地内外の若年世帯向けに、移住先の選択肢に上がるよう、リノベーション費用を示し、新しい住まい選びのヒントを提示する。

リノベーション企画：モデルルーム公開

③「明舞団地再生計画の改定」

平成１６年に再生計画を策定し、平成１９年３月にはブラッシュアップしたが、それから既に１０年経たことから、県で「明舞団地再生計画の改定」の検討が行われている。

④「住み替えシステム構築支援」

住み替え自体が難しいものであり、福祉や医療等の各種地元事業者等と連携した住み替えシステムを構築している。

⑤「エリアマネジメント立ち上げ支援」

自立したエリアマネジメントの立ち上げについて、先行事例の収集、勉強会等を行っている。

⑥他団地再生へもノウハウ

公社としては、県と共に取り組んできた団地再生について、芦屋浜等の団地でも行っている。

昨年度、集会所の改修をツールに地域再生・コミュニティ再生に取り組んでいる。

芦屋浜高層団地交流事業

４　おわりに

オールドニュータウンができた背景や、今の状況などを踏まえながら、ハードの面あるいはソフトの面の両輪から進めてきました。紹介できていない取組みはたくさんありますが、行政でしかできないこと、住民でしかできないこと、そして民間の事業者・企業の皆さまにしかできないことがあると思っていますので、これからもそういった部分で関心を払っていただけたら幸いです。

≪事務局より≫

明舞団地の開発では、旺盛な住宅需要に応えるため公的賃貸住宅の建設戸数は、全体供給戸数の５２．７％を占めています。その後、住宅の充足と共に公的賃貸住宅の使命は変化し、殊に県営住宅にあっては、震災と期を同じくして質重視への転換があり、復興住宅建設後は建替え、改修へとシフトしてきたと思います。

明舞団地でも公的賃貸住宅の建替等により新規需要層の入居が進み、再生も進展していくことと思います。関係者の皆様のご健闘を祈念しています。

６月月例会風景

寄　　稿
神戸秘話「神戸の音楽界の父、田中銀之助」

（一社）兵庫県建築会会長　瀬戸本　淳

神戸は音楽家が多い街だ。人口150万の都市にしてはたくさんの音楽家が活躍し、レベルも高い。

田中銀之助はそんな神戸の音楽会の父ともいうべき人物だ。明治13年（1880）、養父郡大蔵村（現在の朝来市和田山町）の雑貨商「やまとや」の長男として生まれ、大蔵小学校高等科を卒業後同小学校の教員などをしていたが、後に退職して明治35年（1902）、東京音楽学校（現在の東京藝術大学）師範科へ入学した。

田中銀之助氏
提供：田中音友堂

田中が神戸にやって来るのは、音楽学校を卒業した直後の明治38年（1905）のこと。音楽教員として兵庫県立神戸高等女学校（現在の神戸高校）に着任し、その後33年勤務した。

当時、神戸高等女学校は開校４年目の新しい学校で、現在の兵庫県庁１号館の場所にあったそうだ。彼は生徒への指導はもちろん、音楽教育や社会教育の向上も常々考えていたが、生徒たちにとって発表の場となり、一般市民に音楽に親しんでもらえる場にもなる発表会を企画した。そのはじまりは明治40年（1907）頃で、いつしか紀元節の日（２月11日）に定期的に開催されるようになったようだ。

兵庫県立第一神戸高等女学校跡の碑
：兵庫県庁

コーラスやピアノ、バイオリンなど本格的な西洋音楽が演奏されたこの発表会は、その後のさまざまな音楽会のルーツとなった。そして、この舞台をステップとして、さまざまな音楽家が羽ばたいていった。日本を代表するソプラノ歌手の市来崎のり子もその一人で、彼女の薫陶を受けた松本幸三、その子息の松本薫平と、銀之助から続く系譜は今も神戸に息づいている。

田中が神戸高等女学校を退職した昭和12年（1937）にこの発表会を受け継いだ八木真平は音楽教育に尽力した人物。県立第一神戸中学校（現在の神戸高校）をはじめ甲南女子高校・短大、親和女子大学、神戸大和女子短大などで教鞭を執り、音楽教育界を牽引するとともに『兵庫の音楽史』などの著作を残した。

田中は大正４年（1915）に大阪音楽学校（現在の大阪音大）を創設した永井幸次とも親しく、同校の指導者も兼務していたようだ。２人の共著『女子音楽教科書』は広く愛用されたという。

田中は大正に入ると作曲活動にも力を入れるようになったようだ。「おたまじゃくし」など郷愁を誘う童謡を生み出し、荒城の月の編曲もおこなった。また、勤務していた神戸高等女学校の校歌をはじめ、神戸を中心に数々の校歌も作曲している。神戸市立の小学校では福住小、稗田小、板宿小のほか、現在廃校になった北野小、入江小、下山手小、鵯越小、志里池小の校歌を作曲。育英高校や武庫川女子大などの校歌も彼の手によるものだ。

彼が最後に作曲したのは、母校の大蔵小学校の校歌だったという。昭和22年（1947）に疎開先の郷里で没したが、彼の魂はその後多くの音楽家に受け継がれ、神戸で活躍する音楽家の多くは少なからず田中銀之助の流れを継いでいる。ひとつの音の波紋が広がり、時間や空間を超え楽曲となっていくように……。

兵庫県立神戸高等学校鵬友会発行の『鵬友』などを参考にしました。

≪事務局より□

神戸秘話の連載について

瀬戸本会長が、２０１７年１月から“月間　神戸っ子”に連載をされています、神戸のまちが生んだ多彩な人材を紹介する『神戸秘話』につきまして、発行元の了解を得まして当会報にも今月号より連載することといたしました。各界に及ぶ神戸の人材の豊富さに加え、会長の交友の広さに改めて感心しています。

第１回は、音楽の世界からとなります。

寄稿文の最後に出てきます、田中先生の母校「朝来市立大蔵小学校」の校歌が、学校のご厚意で楽譜を頂戴できましたので、広報コーナーに掲載いたしました。楽器を演奏される方は先生の作品を奏でてみてください。

次回は、月刊誌とは順が異なりますが、当会第３代会長「建築家・置塩　章氏」をお届けします。

（注）兵庫県立神戸高等女学校は大正１４年に同第一神戸高等女学校に改称

会員リポート
鉄道秘話「ひょうごのナニコレ珍百景・西宮に残るマンボウトンネル」③

（株）岡工務店　専務取締役　岡　澄彦氏

今月ご紹介する、ひょうごの珍名所シリーズは先月に続いて、西宮のマンボウトンネルを中心にご紹介します。

西宮市にはJRの築堤に3箇所のマンボウ（甲子園口、平松町、大谷町）が今なお現役である。マンボウとは線路下をくぐり抜けるための通路で、もともと水路として利用されていたものに板を敷いて通路として利用したもの。この大谷道と書かれた「東皿池拱渠（きょうきょ）」であるが、拱渠（きょうきょ）とは、橋梁にするには長さの満たない暗渠（あんきょ）を表す専門用語。築造は、やはり鉄道開通と同じ1874年と思われ、当時は水路用のトンネルとして完成したが、1929年に下部を掘り下げて、人が通れるように改修された。これは現存する、日本最古級の近代煉瓦トンネルといえる。

１大谷町マンボウ

２　大谷町引込線遺

（注）マンボウとは
ＪＲ神戸線の下をくぐる人が通れるほどの小さなトンネルをいい、オランダ語の「狭く短いトンネル」マンブウからとの説もあるようです。

この大谷町マンボウを南から北に抜けると、東海道本線大谷町土砂運搬引込線の遺構に出会う。これは現在の、さくら夙川駅と芦屋駅との間に神戸臨港線等の築造に使われた土砂を現在の西宮市大谷町から採取していた。1919年4月東海道本線より引込線を敷設し土砂運搬並びに従業員の乗降のため、森具字久出に仮駅を設置した。鉄道省は神戸築港及臨港線築に造要する土砂を森具字久出の山林に求め採掘後、同地に鉄道従業者の官舎（現在のJR西日本大谷町アパート）を建設した。築堤に並ぶ架線柱の列を見て、誰もが現役の営業路線と見間違うはずだ。しかし送電線としては現役である。

３　引込線に沿って現在も送電線が生きている（現JR芦屋変電所）

平松町マンボウは、大谷町マンボウより（夙川を越えて）同一線上の東に位置する。谷崎潤一郎の小説「細雪」にも登場し、「国道のバス停でそこのマンボウをくぐった先の一本松の横の家」などと紹介されている。

平松町
マンボウ

意外にも身近だが、最初に開削されたのがこの石屋川トンネル（神戸市東灘区）である。同一の沿線上だが最古級のトンネルに縁がある。1871 年に竣工し、1874 年の鉄道開通で供用が開始された。水流を仮の木橋で変えていったん川を取り崩し、レンガを積みトンネルを組み立てた後、再び川を埋めなおすという開削工法がとられたが、1976 年の連続立体交差完成を以て（高架軌道で川を越えるため）現在の水路橋に役割を転じた。当時の遺構はほとんど見当たらない。かろうじて地上線時代の踏切が確認できる程度である。

石屋川トンネル

次回は、「あの場所に鉄道が通っていた！？」どこの場所かは乞うご期待。

花だより＆北播磨小観光

ラベンダーパーク多可、岩座神棚田ほか

７月連休の最終日、曇天で暑さも少し和らいでいるようなので、最近、ラジオでよく流れているラベンダーパーク多可（多可町加美区轟）を中心に、暑さで渋る家内を伴って北播磨路へ“花だより”を求めてのドライブのリポートです。

○パークの少し手前、同町中区門前にある「瑞光寺」の庭園が「兵庫県の日本庭園９３庭」（西　桂著）に紹介されていましたので見学に寄りました。1332 年開山の古刹で高級和紙・杉原紙の商権を有

していたとあります。残念ながら手入れが今一で「池泉鑑賞式庭園」は水草に覆われ、肝心の池泉と築山の景観が損なわれていました。写真の左が石橋と滝口となります。また、この奥にある「平庭式枯山水庭園」も同様の状態で、維持の難しさが推し測られます。

○ラベンダーパークは少し遅いかなと思いながらでしたが、「ラバディン種」がまだピークを保っており、薄紫の花が丘陵一面に咲き誇っていました。間もなく搾油のため収穫されるようです。

香りに包まれての丘陵の散策は、千ケ峰などの山稜や眼下の田園の景観も楽しみながらで、癒しのひと時となります。

５ha の園内に約２万株、ストエカス種、イングリッシュ種そしてラバディン種と種類を違えて５月中旬から愉しめるようです。

○パークから少し南へ戻るとジェラートの「ｗａｃｃａ」があり、牧場直営で評判なので寄ってみました。ショーケース前は長蛇の列で、折角ここまできたということで２０分並んでようやく賞味となりましたが、濃厚なのにさらっとしており、Ｓサイズながら私でも食べきれ、２種類入れて３８０円はリーズナブルで結構でした。花より団子。

○ｗａｃｃａから「岩座神の棚田」を見学するため千ケ峰方面に向かい、途中、果樹園とログハウ

スの「ハーモニーパーク」を覗いてみましたが、今の季節ものの桃は栽培されてなく、秋の栗、リンゴまで販売品はないとのことでした。

そこから更に坂道を登り、峠を越えて急坂を下ると岩座神集落（２２世帯）に辿り着きます。

「岩座神の棚田」は日本の棚田１００選に選定、兵庫県景観形成地区にも指定されています。

その全容を見るのは恐らく対岸の山に登らないと難しいでしょうか。道路沿いからその片鱗は確認できました。ここの棚田は、石垣を積上げて構成されており、「農のピラミッド」と呼ばれています。この棚田保全のため平成８年に保存会を設立し、棚田オーナーを年間２０組募集しているようです。この維持保全はなかなか大変な事業ですが、棚田には次のような機能があります。

１　お米がおいしい（昼夜の寒暖差が大きい）
２　水源涵養、保水機能
３　洪水調整機能（緑のダム）
４　国土保全機能（地すべり防止等）

等々で、これらからも保全対策が必要ですが、後継者等難しい課題です。

神戸市北区の自宅から往復１５０ｋｍながら、７０の声を聞くと昔と違って夏のドライブは距離以上の疲労が出ます。水分補給と適時の休憩を取って安全運転に心がけて下さい。

皆さんからの花、庭園、味覚、観光穴場等地域の情報をお待ちしています。

健　康　づ　く　り
『１００歳人生を考える』

生涯現役を貫いてこられた医師・日野原重明氏が７月１８日１０５歳で亡くなられました。ご意思で延命措置を望まず自力での呼吸、食事を摂られたとありましたが、先生らしく生きられたと感じました。先生を TV 等で知るだけですが、少年期を神戸・栄光教会で過ごされ、神戸大使も委嘱されており、親しみを感じるのはそのようなことがあるのかも知れません。

平成２７年７月の会報第３５７号では、元滋賀県知事国松善次氏の講演「１００歳人生を考える」を報告しましたが、７０歳からの「老いの教育」の必要性とともに、日野原先生の人となりが紹介されていました。先生をよく理解することのできるエピソードで、追悼の意味からも改めてその一部を紹介します。

講演『１００歳人生を考える』(27.05.09)
講　師　国松　善次氏
（滋賀県健康生きがいづくり協議会理事長）

○高齢者とスポーツ

元聖路加病院院長の日野原氏は９３歳から陸上を始めた。百歳を超えた今でも１００ｍを走り、一緒に出たマスター陸上アジア大会で世界記録を出した（他に例がないから）。私は５０００ｍで８位になった。元気で長生きの秘訣は「何歳になっても新しいことを始めること」そして「１０４年の人生で今が一番幸せ」と言っておられる。次は砲丸投げで二冠目を目指している

○人生１００歳時代の到来

１００歳人口は１９６３年の１５３人から２０００年頃から急カーブで上昇し、２０１４年では５８，８２０人となった。しかし、８割が認知症というデーターがある。

２０５５年には高齢化率４０％と言われており、健康な老人づくりを心掛ける必要がある。

そのための健康づくりのカギは次のとおり。

（１）「３つのＫ」を若くする生活習慣づくりをすることである。
　①　筋肉を若く…筋肉を鍛えて汗をかく（筋肉年齢）
　②　血管を若く…食事と呼吸と汗でサラサラ血液（血管年齢）
　③　気持ちを若く…気持ちを明るく、目標を持ち、挑戦と悟りで人生を楽しく（気力年齢）

（２）「心のスパイス３つ」
　①　好奇心　②　遊び心　③　感動と感謝

○人生１００歳時代のライフプラン

７０歳からを人生の本番と捉え、「３０年の老い」をもう一つの青春に転化していく。

そして、「３０年の老い」には「老いの義務教育」が必要で、その狙いは、長い老いを生きる「覚悟とノウハウの体得」である。

現在の義務教育は、大人になるための教育、即ち「登山の教育」であるが、第２の義務教育は、老いを生き切るための教育で、「下山の教育」である。

以上のように、日野原先生が二冠を達成されたことを願いますが、国松氏は人生１００歳時代に向けての心がけや教育の必要性を唱えられおり、既に滋賀県栗東市で「１００歳大学」を開設されています。

お知らせ

◎表　彰

平成２９年建設事業関係功労者表彰
（国土交通大臣表彰）：表彰式７月１０日

≪住宅・建築事業関係≫：敬称略

瀬戸本　淳（㈱瀬戸本淳建築研究室
代表取締役、当会会長）

ご受賞誠におめでとうございました。

◎推薦募集中

平成２９年度兵庫県自治表彰候補者（神戸地区）の推薦・・・提出期日　７月３１日

◎行事案内

①平成２９年９月（第４５９回）月例会

日　時　平成２９年９月７日（木）
１２時から１４時
会　場　西村屋和味旬彩
テーマ　昨今の労働問題について
講　師　村元　四郎　氏
（公財）ひょうご産業活性化センター
理事・総括コーディネーター
兵庫県労働委員会使用者側委員

現在ご案内中です。ご参加よろしくお願いします。

②平成２９年１０月（第４６０回）月例会

日　時　平成２９年１０月１２日（木）
１２時００分から１４時００分
会　場　神戸三宮東急ＲＥＩホテル
テーマ　職場のメンタルヘルス（仮題）
講　師　鵤木　秀夫氏
兵庫県立大学経済学部
健康・スポーツ科学研究室　教授

③平成２９年１１月（第４６１回）
見学研修会兼月例会

日　時　平成２９年１１月１６日（木）
９時１５分～１７時頃

見学コース

① 兵庫県立青少年創造劇場（ピッコロシアター）：尼崎市南塚口町
開設から３０年を経ても使いやすい劇場のトップレベルにあるその真髄を視察。

② 同館館長による講演
「旅と自然の彩」（仮題）

③ 尼崎２１世紀の森：尼崎市扇町
・工場跡の森づくり視察
・スポーツ施設（プール等）のＰＦＩ事業の実施状況

三宮から借上げバス利用により視察しますが、最寄りの方は直行等考慮します。

育成中の森

◎事務局だより

○首都圏では取水制限に入りました。局地的な降雨で肝心の水がめには降らなかったようです。全国的に梅雨時期の降雨は平年より相当低く、関西では６割程度と聞きました。一方では大規模な土砂災害、洪水が発生したり、１時間降雨量でも各地で記録が出ています。

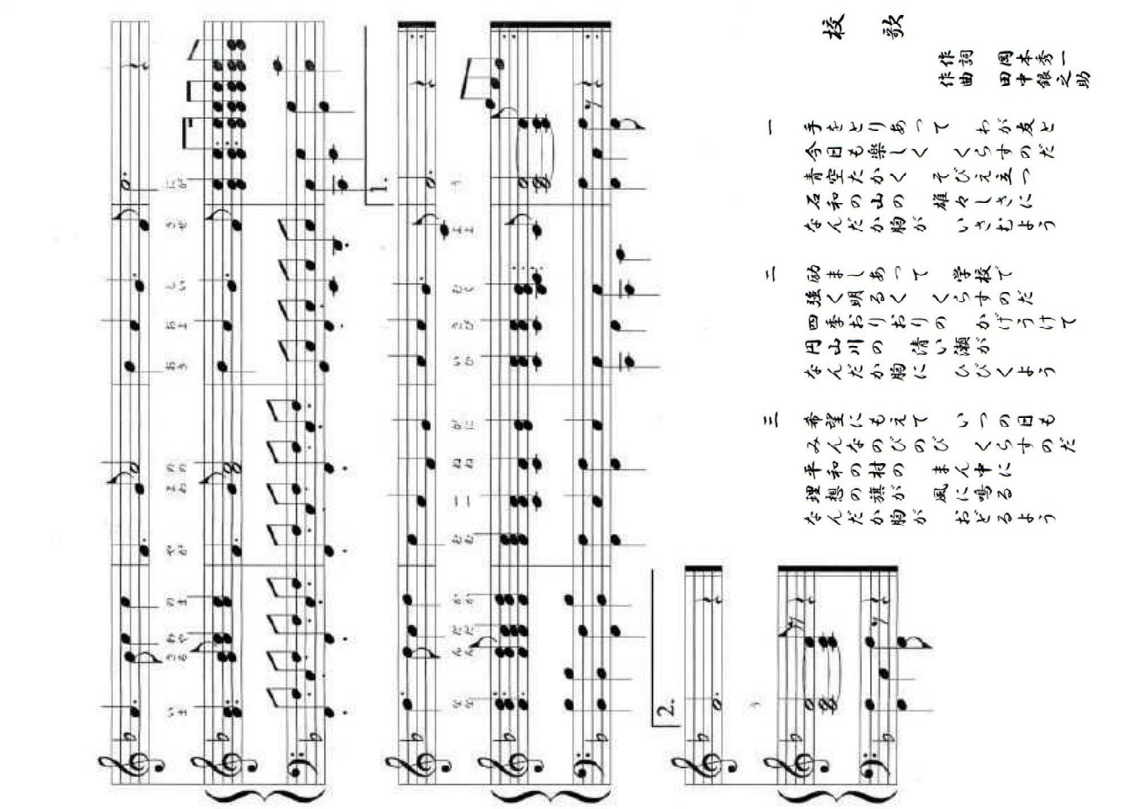
どうやら、温暖化による大気中の水蒸気の量の増加、大気の循環の変化が関係しているようですが、年平均降水量は必ずしも増えていないということです。毎年何十年に一度の異常気象が発生する時代となりました。周辺の環境を十分に点検しておく必要があります。

○お盆期間中の建設会館の休館は８月１４日から１６日となります。山の日の休日もあり長期となりますので、ご注意とともにご理解をお願いします。連絡体制等別途ご案内します。

そして、既に酷暑の夏の様相です。ご健康には十分に気を付けてください。

事務局　：　谷　純夫、石井滝実子
電　話　：　078－996－2851
FAX　：　078－996－2852
Email　：　archit-k@axel.ocn.ne.jp

寄稿『神戸の音楽界の父、田中銀之助』より朝来市立大蔵小学校校歌



広報コーナー：兵庫県住宅再建共済制度

火災保険・共済に加入されている皆様へ

熊本地震！他人事ではありません

★明日かもしれない大地震 ・・・ マンション、耐震住宅が壊れることも
地震や津波の被災では、地震保険・共済でないと保険金等は出ない

★地震保険・共済は、火災保険金額の５０～３０％しか加入できない
だから足りない ⇒ フェニックス共済と併せて加入を

★フェニックス共済６００万円と、例えば地震保険1000万円の合計掛金は、
月当たり、戸建て1,695円、マンション1,095円
フ420円＋地1,275円　　フ420円＋地675円　※フ：フェニックス共済　地：地震保険

★共済は、助け合いの制度、自分に被害がなくても、被災者の支援に

自然災害からの住宅再建 ・ **フェニックス共済**
唯一 **兵庫県** が実施する安心の共済制度です

地震！豪雨！こんなに

★南海トラフ地震の発生確率30年以内に７割
県の試算、県内各地で全半壊21.5万棟
山崎断層、上町断層など危険な断層多数
★平成16年以降、県内の水害・土砂災害２万棟

あなたの家は大丈夫？

★阪神・淡路に耐えた家、実は危ない？
★新耐震基準は倒壊しないことが目標
新築や基準クリアでも壊れることも
★巨大化する台風・増えるゲリラ豪雨

ほんとになんとかなりますか？

★自分はたぶん大丈夫 → 地震も洪水も、ほとんどの被災者はそう思っていました
★ローンがあって家が壊れたら → ローンのある方、建替にローンが必要な方は備えを
★生きてさえいればなんとかなる → 備えの有無で、その後の生活に大きな差が
★国がなんとかしてくれる → 南海トラフ地震は被害広範囲、復興に時間がかかるかも
★マンションの再建は難しい → 再建が難しいときは、別のマンションを買う選択肢も
★高齢だし古家だし壊れたら仕方ない → 高齢ほど近所づきあいが大切、現地再建が重要
★家が壊れたら自分も助からない → 阪神・淡路の時、全壊建物の約99%の人が助かりました

大地震も　備えれば、被害はもっと小さく

【事前にぜひ】
①家具、家電の固定
②避難場所、連絡先の確認
③避難時必要品を身の回りに
④1週間分の食料備蓄
⑤**フェニックス共済**に加入
⑥耐震診断、住宅補強

【これもあわせて】
①風呂水のくみ置き
②ガラスの飛散防止
③防災知識の向上